

主に指導する教科・領域 国語

実 態	目 標	
言語による簡単な指示を理解することができる。自分の思いを単語で伝えることもできるが、構音に歪(ひず)みがあり、不明りょうである。平仮名を読むことはまだ難しい。鉛筆を使って文字を書く経験は少なく、筆圧も弱いため、平仮名を書くことはまだ難しい。	長 期	拗(よう)音、促音を含む平仮名を読むことができる。
	短 期	平仮名の五十音を読むことができる。
	手 だ て	
<ul style="list-style-type: none"> ・文字の視覚的な印象を強くするために、平仮名の文字をかたどった絵カードを作成する。 ・語の韻の印象を強くするために、絵カードに記したものとその文字を歌詞にした歌を作り、リズムよく示す。 		

< 実 践 事 例 > 単元「平仮名を読もう」(児童C)

- ① Cの前に座り、紙芝居を見せるように八つ切り大の平仮名絵カードを見せた。「あ」の絵カードは、「あ」の文字を使って「あり」の絵を記した。Cは、その絵を見て、にこにこしてうれしそうだった。
- ② 教師は、「ありさん あるいて あ、あ、あ」と簡単な自作の歌を歌って見せた。もともと歌や踊りの好きなCは、すぐにこの歌を覚えて、教師の歌に合わせて、歌うようになった。
- ③ 教師は、Cが歌を通して発音した「あ」の音を聞き、Cに向けて、「あ」の発音の正しい口の形を示しながら、何度か「あ」と発した。Cは、教師の口元を見ながら「あ」を発した。
- ④ 次に、教師は、絵カードをCの目の前に置き、「あ」と言いながら、指で文字を書き順どおりなぞって見せた。
- ⑤ Cに同じように指でなぞるように指示し、初めは、Cの手を持ってゆっくり「あ」をなぞった。
- ⑥ Cは、だんだんと自分から指でなぞろうとするようになり、絵カードの「あ」の線から指がずれていくことも少なくなった。残りの平仮名の絵カードを順次作成し、同じような手順でCの学習を進めていく予定である。



<平仮名の文字でかたどった絵カード>

評 価	今後の課題
<p>平仮名の文字を学習するに当たって、絵と歌を利用したことが、Cには効果的だった。文字と絵が一体化していることで、同時に目にすることができることやリズムに合わせて発音することもCの意欲を高め、理解を深めたと思う。しかし、発音が苦手な文字については、別の課題を設定して発声の学習をしなくてはならない。指でなぞることで、書くことへの準備にもなったと考える。</p>	<p>五十音分の自作の歌を作ったとしても、その歌の数が多くなり過ぎて、Cが混乱することが予想される。リズムや歌を整理して、分かりやすく提示できるようにする必要がある。「読むために書く」という学習内容を考え、並行して進めることが望ましいと考える。</p>